



次は地価、これまた株価以上に激しい変動を繰り返している。銀座表通りの地価が前のバブルの時は坪一億五千万円、日本中で一番高いと言われた角の鳩居堂のところは坪四億円とか、信じられないくらいの数字を聞いた。それが暴落し、平成十七年頃又バブル再来と言われた時は銀座表通りブランド街で坪一億二千万円の取引まであったと聞いたが、それが又、三分の一以下に下っているという。

どうも日本は未だ土地資本主義であり、金融機関は質屋でない筈なのに担保は土地という頭が強く、それだけに地価の下落は担保の不足を招き、債権を不良化し、新たな貸付はダメなどころか、貸し渋り、貸し剥し、運転資金の貸付けさえ渋るという状態となる。それは、金融庁の検査方針も影響なしとはしない。かつて私は不良債権の整理促進が更に不良債権を急増させると思い、反対したことがあるが、地価の暴落が深くかかわっていることは事実である。

そういう株や土地の価格の下落については、暫し、会計上猶予する方策を考えてしかるべきかと思っている。時価会計、減損会計の取扱いについて近頃見直し（一時的にもせよ）の動きがあることは結構なことであるし、もっと徹底して貰いたい。公認会計士協会の問題でもある。

ゴルフの会員権、絵画の価格についても同じような波動がある。が、いささか紙数が不足して来たので、次の機会に譲りたいが、これまた景気の変動を敏感に映している。

一つ例を挙げる。私はゴルフを始めた四十年以上前、千葉のあるゴルフ場の会員権を友人に薦められて三五万円で購入した。それがバブルの頃は会員権会社の相場表では四千五百万円まで上っているの、喜んでいたら、バブルの崩壊とともに逆戻り百万円を切り、その後三百万円ぐらいいなり、又、現在は六〇万円ぐらいで下って了った。

プレーをする権利さえあればいいとは言うものの、いつの間にか聞いたこともないような外資に売られ、預り金何千万円が百分の一以下にもなったという例は、いくつも聞いている。まるで詐欺にも似た、こういう会員権の取扱いは、どこかチェックするところがないものか、と思うばかりである。仕方がないので済まされる問題ではないのか、と思う。いずれにしても、物価の変動は、身近な問題として関心と呼ぶものだけに、何とか理不尽な変動を調整する手段はないものか。資本主義の仕組みのなかで仕方がないで放置される問題か、どうもよくわからない。読者諸賢如何に思われるか。